

歴史文化クラブ9月研修会 国生み神話と弥生古代遺跡の淡路島

坂東 久平

9月12日、歴史文化クラブ研修会を開催。参加者27名で、朝から大荒れで大雨警報の発令される豪雨の中、8時に西大寺駅前を出発した。

今回は、神話で有名な、「オノコロシマ」やヤマトの島々をお生みになったイザナギノミコトを祭る伊弉諾神宮と、弥生前期頃に作られた松帆銅鐸や、弥生後期の鉄器の生産基地・五斗長垣内遺跡を巡り、最後に奈良時代の淳仁天皇の御陵に参拝して、淡路島の歴史を勉強した。

激しい雨は収まり、計画通り10時に淡路島ハイウェイオアシスに到着した時には、小降りとなり、以降は殆ど降られずに済んだ。

車中、古川さんの国生み神話、青木さんの古事記解説などがあった。イザナギとイザナミの最初に作った子供が「蛭子」であったので、蘆舟に乗せて流した。今は西宮の恵比寿神社に祭られているそうである。

最初の訪問地「絵島」は、数あるオノコロシマ候補の一つである。この島は、地質学的に珍しい褐鉄鉱沈殿砂岩層（約二千万年前の砂岩層）でできており、珍しいものを見ることが出来た。

五斗長垣内遺跡に行く車中で、中井さんの古代の鉄器生産について解説を聞いて、予備知識を蓄えた。遺跡は、1世紀後半から2世紀にわたる鉄器生産の鍛冶遺構で、標高200mの丘陵上にあった。

遺跡では、片山学芸員の出迎えを受け、早速詳しい



説明があった。原料鉄の入手ルートは不明であるが、アマ族が関わっていたようである。炭焼きは無く、消し炭を使用しており、再現実験で1,300度まで温度の上昇が確かめられて

いる。講義の後、復元された鍛冶工房などを見学した。

大変面白く、広々とした遺跡で楽しい時間を送ることができたが、大幅に時間を超過し、30分遅れで、伊弉諾神宮到着となった。予定では、高田屋嘉兵衛公園の芝生広場で昼食を取ることにしていたが、雨で濡れていたもので、参拝後に車中の昼食となった。

バタバタと参拝と昼食を済ませ、次の松帆センターに向かう。車中で坂東の、銅鐸についての解説を行い、遅れて到着した。

お願いしていた、定松学芸員のお話を聞く。淡路島では、銅鐸、銅剣が沢山出土しており、銅剣が14本も一度に出ている。松帆の銅鐸は大変珍しく、3組が入れ子状態になっており、舌（銅鐸を鳴らす棒）も揃って見つかった。（舌の出土は珍しい）

定松さんの話はかなり予定を超過し、30分遅れの出発で、最後の訪問地、淳仁天皇陵に向かう。

淳仁天皇は孝謙天皇の次の第47代天皇であるが、実権は藤原仲麻呂がにぎり、専横が目立っていた。淳仁天皇が孝謙上皇の道鏡との関係を糾したため、上皇は激怒し淳仁は廢帝となり淡路島に流され、この地で亡くなる。葬儀も墓も無かったが、光仁天皇の時に陵を設けた。



淳仁天皇陵にて

奈良時代からは、天皇陵も古墳ではなく、円丘となっている。

予定の15時に出発し、途中ハイウェイオアシスでお土産を買い、バスは順調に走って、西大寺には17時40分に到着した。お天気はスッカリ回復し夕映えが美しかった。